

キャラクター名
夜御守 悠乃(偽名)

プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	レネガイドビーイングC	カヴァー	都市伝説
	バロール			年齢	不明	性別
オプション	覚醒	渴望	衝動	妄想	初期侵食率	36%
出自	半身	経験	勧誘	邂逅	幼子	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	0	0	1			1	行動値	10
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	10
精神	4	1	1			6	戦闘移動	15
社会	2	0	0			2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	3		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識: 隠れ知識	2		情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:	2		情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		10r+5		+6		RC C値8 対象: 範囲(選択) 1使用後に2345
		14r+7		+8		RC C値7 対象: 範囲(選択) 上のコンボの浸食率100%オーバー
		0				
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	1	1			

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 要人への貸し	

合計装甲: 1 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
半身	P 執着	N 恐怖		
勧誘者	P 好奇心	N 不信任		
テレーズ・ブルム	P 慈愛	N 不安		
くらやみさん?	P 有為	N 猜疑心		
近衛一条	P 親近感	N 嫉妬		
春日恭二	P 同情	N 嫌悪		
坂口	P 尽力	N 憎悪		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	-	自身	-	RB	
効果: 人間になる 衝動判定のダイスを+LV個 基本浸食率+5								
オリジン: レジェンド	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果: そのシーンの間、自分が行う精神を使用した判定の達成値を+ {LV*2}								
コンセントレイト: バロール	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: 組み合わせた判定のクリティカル値を-LV(下限7)								
黒の鉄槌	2	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 威力LV*2+2のRC射撃 同エンゲージに攻撃できない								
黒星の門	3	2	メジャー	-	-	-	ピュア	
効果: ダイス+ {LV+1} 個 このエフェクトを組み合わせた場合同エンゲージを攻撃できないエフェクトでも同エンゲージに使用できる								
因果歪曲	2	3	メジャー	-	範囲(選択)	-	-	
効果: 1シナリオLV回 組み合わせたエフェクトの対象を範囲(選択)に 同エンゲージに攻撃できない								
孤独の魔眼	1	4	オート	視界	効果参照	自動	-	
効果: 1シナリオLV回 自分を対象に含む対象: 範囲または範囲(選択)の攻撃の対象を自分一人に変更 その攻撃はカバリングの対象にならない								
時間凍結	1	5	イニシアチブ	至近	自身	自動	80↑	
効果: 1シナリオ1回 組み合わせ不可 イニシアチブプロセスでメインプロセスを行える このメインプロセスは行動済みでも行え、行っても行動済みにならない。このメインプロセスの後、HPを20点消費する								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 1シナリオ1回 相手の判定を失敗させる 判定を行わない行動に対しては使用できない								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「——それはそれは、些細な願いだったんだ。まだ私の棲み処が人の祈りに満ちていた頃に抱いた、たぶん、最初で最後の願い」

くらやみさん。それは黄昏時に何処からともなく現れる、得体の知れない隣人。おどろおどろしい名前とは裏腹に、時に迷子を送り届けたり、悪しきものから人を守り遠ざけたりしてくれる、守り神のような存在。今はもう、皆が忘れてしまったけれど。

数え切れないほどの月日が巡り、いつしか自分の意識を得て、自らの現状を知って。それでも彼女は、カタチを願った。人と触れ合えるように、人に親しめるように。人の、助けになれるように。しかし、人の噂は歪むもの。伝承から生まれた「くらやみさん」もまた例外ではない。目覚めた彼女は自分の近くに、自分と同じものの存在を感じていた。同じように生まれ、同じように願い、同じようにカタチを得た。しかしある一点において——その願いが「人を害すること」だったという点において——自分とは異なる属性を持った悪しき半身。それを倒すことこそが、彼女の使命だ。